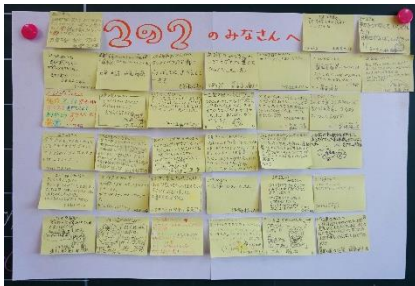




### 思いを伝える ～運動会の応援メッセージ～

運動会当日の早朝、各教室を見て回りました。すると、そこには子供たちや担任からの熱い思いを伝えるメッセージが並んでいました。高学年は、低・中学年の後輩に向けて各々が付箋に言葉を書き、応援の気持ちを届けました。また、A先生は、一人一人への激励を黒板いっぱい書き込み、B先生は、「いっしょうけんめいな君が、美しい」と、子供の心に響く素敵なメッセージを送りました。

このように、男川小には、相手の頑張りを心から願い、それを伝える温かさがあふれています。運動会を通して育まれた「思いやり」の気持ちが、今後の学校生活をより豊かにしていくことでしょう。



▲5年生から2年生へのメッセージ



▲A先生と教育実習の先生からの言葉



### シリーズ「東京オリンピック」⑨ ～「夢」から「目標」へ～

シリーズ第9回は、男子体操で「個人総合＝金、鉄棒＝金、団体＝銀」の3個のメダルを獲得した橋本大輝選手に注目します。橋本選手は、五輪後、インタビューで次のような趣旨の話をしています。

「この三つのメダルは、ただ純粋に重いだけではなくて、僕がリオ（＝リオ五輪）を見て感じた思いに対して、努力を重ねてきたことがすごく伝わる重さだと感じています。リオのときはテレビで見ている『いつか出られたらいいな』っていう感じで、絶対に出たいという信念が明確ではありませんでした。でも、高校2年生になって、初めて本気で（オリンピック出場を）目指すようになりました。リオの団体総合で日本が金メダルを取ったときの印象がすごく残っていて、自分がオリンピックの舞台に立つということをはっきりと目指し、いろいろな人に支えてもらいながらやってきました。」

このように、橋本選手は、5年前の「いつかオリンピックに出られたらいいな」という夢が、3年前の高校2年生の時に、「オリンピックに出る」というはっきりとした「目標」に変わりました。「夢」が「目標」に変わったことで、本気度が格段に増し、また、何をどのようにどれくらい練習すればオリンピックでの金メダル獲得につながるのかという具体的な努力の方法も見えたことでしょう。



男川っ子たちは、小学生である今、いろいろな「夢」を描いていると思います。近い将来、それが明確な自分の「目標」になる日が訪れることを楽しみにしています。